

ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ  
—「対話型教師研修」のための活用法を考える—開催報告

第9回協働実践研究会に続いて、翌日の2015年9月6日(日)、ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップをシーナカリンウィロート大学にて開催しました。週末にもかかわらず、タイ・日本・台湾で日本語教育に従事する27名の参加がありました。

【ファシリテーター】

金孝卿(大阪大学)・トンプソン美恵子(早稲田大学)

【スケジュール】

- 1:00~1:15 開会の挨拶・趣旨説明  
1:15~2:45 ティーチング・ポートフォリオの体験Ⅰ  
(休憩)  
2:55~3:25 ティーチング・ポートフォリオの体験Ⅱ  
3:25~3:55 ディスカッション  
3:55~4:00 閉会の挨拶

ティーチング・ポートフォリオ作成の目的・意義を趣旨説明で確認した後、ワークショップでは、A3用紙と2種類の色の付せんを用いた簡易版ティーチング・ポートフォリオ作成体験活動を行ないました。自身が担当する授業や教育活動をふり返し、a) 授業や教育活動でどのような方法を用いているか、b) それらの方法はどのような理念・信念に基づいているか、c) それらの方法による教育実践の成果はどうか、d) 教育改善への取り組みはあるか、e) 教育実践における今後の目標(短期・長期)は何かを段階を追って考え、キーワードや短い文で付せんに書き、自身の実践を整理していきました。この簡易版ティーチング・ポートフォリオ作成に際し、ペアで共有することに重きを置きました。ペアでの共有においては、思考の整理、新たな視点の獲得、実践知を言語化することで成果と課題の可視化などを図りました。

ディスカッションでは、ティーチング・ポートフォリオの作成体験に対する感想が主に共有されました。参加者からは、「これまでやってきたことを整理できて、やったことがはっきり見えてきた」「具体的な取り組みだけでなく、なぜそれをしてきたのか目的も再確認することができた」「子どもに活動時間を確保したいと思っていたが、自分自身が協働を体験しその思いが強くなった」「タイ人と日本人でペアをやったら、色々なアイデアが出てくると思う」「ペアとの共有は示唆に富む」など、概ね肯定的なコメントをいただきました。参加者の反応から、ティーチング・ポートフォリオを用いた対話型教師研修の可能性が見えてきましたが、今後さらに検討していきたいと思えます。

なお、本ワークショップは、平成26年度～平成29年度、基盤研究（B）学びの関係性構築をめざした「対話型教師研修」の研究（研究代表者：舘岡洋子）の助成を受けて行なわれました。

